



いのち短し 恋せよ少女  
朱き唇 裾せぬ間に  
「ゴンドラの唄」より



カチューシャ かわいや わかれのつらさ  
せめて淡雪 とけぬ間と  
「カチューシャの唄」より



第263回 市民の劇場 公募型企画応援プロジェクト vol.10

後藤好子ひとり芝居

# 須磨子という名の正子

作・演出 ふじたあさや ～女優・松井須磨子の光と影～

2009年3月25日(水)午後7時/26日(木)午後1時30分

岐阜市文化センター小ホール

料金 一般 3,000円 / 高校生以下 2,000円 (日時指定・全自由席・当日は500円増)

主催 後藤好子ひとり芝居「須磨子という名の正子」実行委員会

後援 岐阜県教育委員会

この事業は岐阜市在住の舞台女優・後藤好子と岐阜市・(財)岐阜市公共ホール管理財団の共同事業です。



日本の新劇女優第一号と言われ、カチューシャの唄などの劇中歌とともに、一世を風靡した大女優・松井須磨子。大正時代の新しい女性像として、人々の憧れでもあった須磨子であるが、大正8年1月、自らの人生に幕を下ろした。この作品は松井須磨子本人は登場せず、須磨子を慕って同郷の松代から上京してきた須磨子の本名と同じ名を持つ正子という女中の目を通して、須磨子に迫るひとり芝居である。観客は正子と共に壮絶な須磨子の人生を追体験することとなる。

## 須磨子と好子 ふじたあさや

「松井須磨子なんか芝居になりませんか」と、後藤好子が言ってきたとき、ぼくは「なるほど」と、納得した思いだった。そうか、後藤好子は松井須磨子に関心があったのか、それなら分かる、と思った。分かると思った理由はいくつかある。ひとつは、二人ともいつも、明日は違う自分になる、と、思っていることだ。こんなはずではない、と、思っているということでもある。絶えず内側に、自分に対する不満を抱いていて、満足することはない。ふたつには、その実、ふたりとも、他人に口出しはさせないという、強い意志を持っているということがある。須磨子のそれは、はなはだ強く、周囲を辟易させるほどだったという。ところが、見た目とは裏腹に、二人とも自分にコンプレックスを抱いていて、それがどうやら前進のエネルギーになっているらしいのだ。須磨子の場合には、結婚に失敗しているというコンプレックス、育った環境が周囲の女優たちと違う、自分は無学な田舎者だというコンプレックスだった。これだけはどうやら違うと思えるのが、須磨子は絶えず男にすがらないと生きてはいけぬ女だった、ということだ。男を食い物にしていると、袖にされた男たちは悪口を言った。それだけ須磨子は、男好きのする女だったのだろう。ぼくは、そうしたプラスマイナスのすべてをエネルギーにしながら、須磨子は、新劇の大衆化といういまだ果たされていない夢を、ただひとり果たした先覚者だと思っている。後藤好子には、男は食い物にしないで良いから、この夢だけは須磨子と共有してもらいたい、と願っている。ところでこの芝居、須磨子を描きながら須磨子は登場しない。その方が須磨子を描くのには都合良かったからだが、その点では、須磨子演じたかった好子には悪いことをしたかな、と、思っている。



後藤好子

南山短期大学在学時、ESSドラマフェスティバル・ベストアクトレス賞を受賞。卒業後、俳優館アカデミーを経て俳優館に入団。以後、中心女優として活躍、全国での公演を重ねる。代表作は「カレーライス物語」「雨ニモマケズ!」「春香伝・伝」「ぼくらはみんな生きている!」他。躍動感溢れる演技が魅力で、外部への出演も数多い。名古屋市文化振興事業団「天国と地獄」(2002年)、ぎふ市民創作野外劇(2001年)、他。大須オペラ・大須師走歌舞伎では「カルメン」(カルメン役)、「青ひげ」(プロテ役)、「パロマの前夜祭」(アントニア役)、「将門伝説後日の旗上」(瀧夜叉姫役)他、近年の殆どの作品に主要キャストとして客演している。平成10年度文化庁芸術インターシップ研修員。平成13年度(社)日本劇団協議会ワークショップスカラーシップ生。



松井須磨子

本名・小林正子。日本初の新劇女優。長野県松代市清野に士族の五女として誕生。17歳で上京後、2度の結婚・離婚を経験するが、2度目の夫の影響で演劇に興味を持ち、坪内逍遙の文藝協演劇研究所第一期生として女優としての活動を開始。「人形の家」のノラや「復活」のカチューシャでスターとなる。劇中に歌った「カチューシャの唄」や「ゴンドラの唄」は爆発的な人気で、この時代の一世を風靡。大正8年、師であり、愛人であった島村抱月の死を追って「カルメン」の上演期間中に32歳の生涯に自ら幕を下ろす。須磨子は抱月の墓と一緒に埋葬される事を望んだが、それは叶わぬ夢であった。自由奔放に情熱的に生きた女性、松井須磨子。余談だが、1917年発売の「今度生まれたら」により日本における発売レコード第一号ともなっている。

### スタッフ

舞台美術 ふじたあさや 衣裳 中矢恵子 演出助手 中田裕子 照明 福井孝子  
音響 堀場智宏 舞台監督 ワタナベカズミ 小道具 工藤真 宣伝美術 内藤彰子  
制作 後藤好子 杜川リントロウ 協力 総合劇集団俳優館

2009年3月25日(水)午後7時・26日(木)午後1時30分 (開場は開演の30分前です)

入場料 一般 3,000円・高校生以下 2,000円 (日時指定・全自由席・当日は500円増)

### チケット発売

岐阜市文化センター TEL 058-262-6200

岐阜市民会館 TEL 058-262-8111

長良川国際会議場 TEL 058-296-1200

◇ローソン全店 Lコード No.41974 (ファミリーマート、サンクス、セブンイレブンでも)  
◇チケットぴあ Pコード No.390-558 (直接お問い合わせいただけます)

### お問合せ

総合劇集団 俳優館 TEL 052-203-8721/FAX 052-203-8729

Eメール ttm-mr@ss.ij4u.or.jp ホームページ <http://www.hi-you-can.com>

### 前回の公演から

- 須磨子と言う女優は知らなかったが、自分の想いのまま、素直にまっすぐ生きた彼女に惹かれました。(20代 男性)
- 凄かった!泣きました!須磨子、悲しい。須磨子、いとおしかったです。(30代 女性)
- 今日の舞台を見て、松井須磨子は強さと弱さを内包した人間ではないかと思いました。それは、私達の事でもあります。(40代 男性)
- 亡き母は明治38年生まれ。松井須磨子の話をカチューシャの唄と共に聞かされた記憶が甦ってきました。(60代 女性)
- 後藤さんは、この作品をライフワークにすべきかもしれない。(2004年11月 中日新聞より)



### 公募型企画応援プロジェクトとは?

お問合せは、岐阜市文化センター  
**058-262-6200** まで

地元アーティストによる様々なジャンルの舞台芸術の企画に対して、財団法人岐阜市公共ホール管理財団が幅広く支援を行うことにより、アーティストの企画実現をサポートするプロジェクトです

★平成20年12月17日(水) 18時30分 総合表現の世界「いのちの旅」文化センター小劇場 全自由席 500円  
★平成21年1月18日(日) 13時 G I F U ポップ・ロック・ジャム 文化センター催し広場 全自由席 1,500円